

# 報告 施工管理者を対象としたコンクリートポンプ工法に関する技術講習会の実施報告

○長谷川恭裕<sup>\*1</sup> 中田 善久<sup>\*2</sup>  
 長谷川員典<sup>\*1</sup> 河崎 慎吾<sup>\*1</sup>  
 住井 次郎<sup>\*1</sup> 宮田 敦典<sup>\*3</sup>

講習会 施工管理者 現場作業  
 トラブル 事故事例 アンケート

## 1. はじめに

東海地区コンクリート圧送有限責任事業組合では、当組合の基本理念である「革新的な共同事業により、新しい圧送業を創造し専門工事業者として建設業の健全な発展に貢献する。」の一環として、平成 29 年 6 月 10 日（土）に「施工管理者のための圧送計画の第一歩」と題した技術講習会を実施した。本報告では、本講習会の開催目的、講習会の概要に加え、当日に聴講者から得られたアンケート結果について報告する。

## 2. 技術講習会の開催目的

圧送業界全体として、圧送技術、技能の向上、労災事故の防止および人材育成に力を入れているものの、現場に常駐しない圧送業は、現場の中でも理解されにくい業種の一つとなっている。そこで、当組合は、本技術講習会をきっかけに、圧送技能者の建設現場における段取りから一連の作業の流れ、トラブル時の対応、多発している事故などを施工管理者に理解していただき、圧送業者と施工管理者とのコンクリートポンプ工法の共有の第一歩となることを目的として技術講習会を開催した。

## 3. 講習会の内容

講習会は、平成 29 年 6 月 10 日（土）に名古屋国際会議場（4階 レセプションホール）にて開催し、全国から約 300 名が参加した。講習会の内容は、1 部「ポンプに使われるコンクリートの知識」、2 部「安全な圧送計画のために」の 2 部構成とし、1 部「ポンプに使われるコンクリートの知識」でコンクリートの基本から調査、圧送による品質変

化について解説し、2 部「安全な圧送計画のために」でコンクリートポンプ工法の基本に加え、圧送計画の立案方法（1日の打込み量の決定、圧送負荷の算定方法など）、近年多発しているコンクリートポンプにかかわる事故・トラブルなどについて解説した。

## 4. 聴講者向けアンケート

### 4.1 アンケートの概要

アンケートは、講習会に参加した約 300 名に配布し、講習会終了後に回収した。回答数は 198 件であった。調査項目および設問項目を表 1 に示す。調査項目は、参加者の属性および講習会に関する事項とし、講習会に関する設問内容は、講習会の参加に関する事項および講習内容の業務への有用性とした。

### 4.2 アンケートの結果

#### (1) 参加者の属性

参加者の属性を図 1 に示す。参加者の性別は、97% が男性であり、世代的には 20 代から 60 代までの幅広い世代の施工管理者が参加した。参加者の職種は、土木系技術

表 1 講習会のパンフレット

調査項目	設問項目
参加者の属性について	(1)性別 (2)年齢 (3)職種 (4)年間で扱うコンクリート量
講習会について	(1)講習会開催を知ったきっかけ (2)参加を決めた理由 (3)講習会の理解度 (4)業務への有用性 (5)業務に役立つと感じた内容 (6)講習会の満足度 (7)次回以降の参加の意欲

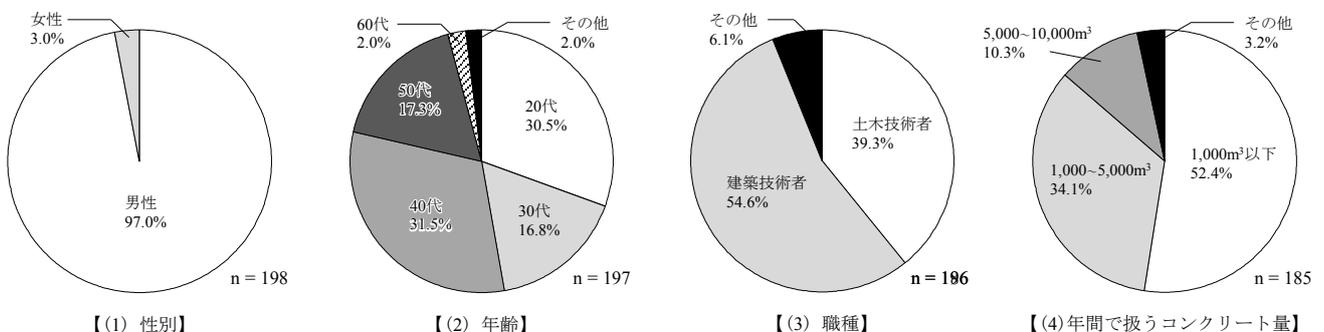


図 1 参加者の属性について

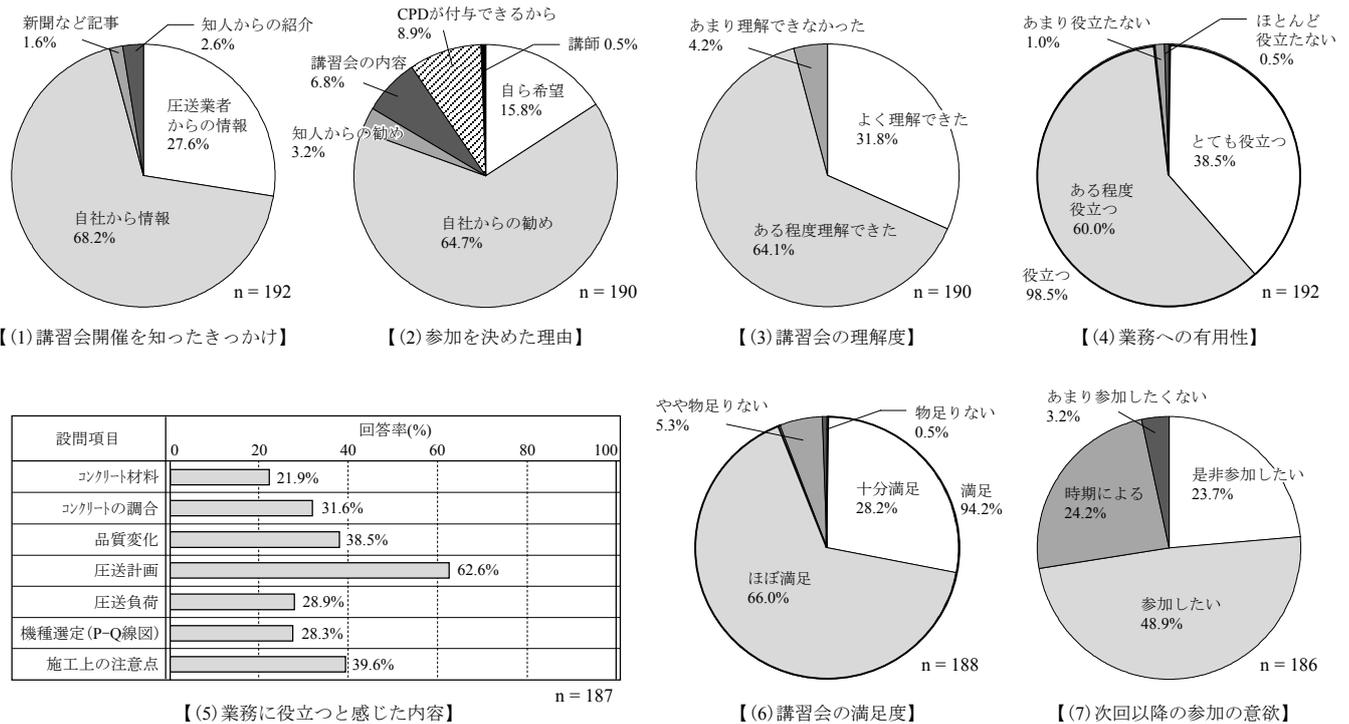


図-2 講習会に関するアンケート結果

者が39.3%であり、建築系技術者が54.6%であった。また、参加者は、施工管理者だけではなく、圧送業以外の専門工事業者や資機材メーカーからの参加も見られた。参加者が年間で扱うコンクリート量は、1,000m<sup>3</sup>が最も多く、全体の過半数以上であり、参加者の中には最大で30,000m<sup>3</sup>という回答も見られた。

## (2) 講習会について

講習会に関するアンケート結果を図-2に示す。

講習会開催を知ったきっかけは、“自社からの情報”が68.2%と最も多く、続いて“圧送業者からの情報”が27.6%と多かった。これは、本講習会の開催に際し、当組合から施工会社を主とする関連企業に案内状を配布したことによるものである。

参加を決めた理由は、“自社からの勧め”が64.7%と最も多く、施工会社の圧送工事における技術の向上や労災事故の防止の意向がうかがえる。また、“自ら希望”の回答や“CPDが付与できるから”という回答も多く見られた。

講習会の理解度は、“よく理解できた”および“ある程度理解できた”の回答が合わせて95.9%であった。

講習会が日頃の業務に役立つとする回答は、“とても役立つ”および“ある程度役立つ”を合わせて98.5%であった。

業務に役立つと感じた内容は、圧送計画が62.6%と最も多く、続いて施工上の注意点や品質変化が多かった。実際

の施工現場において、圧送工事の技術的事項は、圧送従事者に移管される傾向があるため、本講習会をきっかけに施工管理者と圧送従事者の連携をとり、更なる工事が円滑にかつ安全に進められることを期待する。

講習会の満足度は、“十分満足”および“ほぼ満足”の回答が合わせて94.2%であった。本講習会の開催は、参加者にとって有用であったといえる。

次回以降の参加の意欲は、“是非参加したい”および“参加したい”を合わせて98.5%であった。引き続き、本講習会のような技術的な講習会を実施することが必要であると考える。

## 5. 講習会を終えて

コンクリート圧送工事の安全と品質の確保のために、業種を超えた情報の共有が重要であると考えており、今回の講習会は、その足掛かりとなる有意義な時間になったと自負している。当組合は、今後も引き続き情報の共有の場を設け、更なる信用と信頼の向上を目指し様々な取組みを行う予定である。

最後に、本講習会に参加いただいた方々ならびに開催にあたり多大なるご協力をいただいた全国コンクリート圧送事業団体連合会事務局をはじめとする関係者各位に、この場を借りてお礼申し上げます。

\*1 東海地区コンクリート圧送有限責任事業組合, \*2 日本大学理工学部建築学科 教授, 博士 (工学),

\*3 日本大学理工学部建築学科 助手, 修士 (工学)